

## 7 外国語（英語）

### 「言語活動を通して」資質・能力を育成

外国語科の目標は、「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動**及びこれらをつなげた**統合的な言語活動を通して**、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする**コミュニケーション**を図る資質・能力を育成すること」、つまり、実際に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動を通じた資質・能力の育成が求められています。

英語で「聞く／読む／話す／書く」とは、単純に聞いたり読んだりした英語を日本語に置き換えたり、ただ英語が口から出てきたり、書いたりすることではありません。適切な支援を行った上で、英語を使って内容を理解したりメッセージを伝え合ったりする活動＝**言語活動**を授業内で効果的に実施するようにしましょう。

### 目的や場面、状況などに応じて

外国語科における「知識及び技能」の育成は、「外国語の音声や語彙、文法、言語の働きなどの理解を深める」という「知識」の面と、その知識を「実際のコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる」という「技能」の面とで構成されています。また「思考力、判断力、表現力等」の育成のためには、知識及び技能を活用して、**コミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて**、概要や要点、意図などを的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う必要があります。

文法など言語材料の指導に当たっては、「**コミュニケーションを支えるもの**」であることを踏まえ、文脈から切り離された知識として理解させるのではなく、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう指導することが必要です。実際の指導においては、実際のコミュニケーションにおけるその文法事項の活用の必然性に生徒が気付くような指導を行うようにしましょう。

### 4 技能 5 領域の指導と評価

外国語科の目標は、聞くこと(L)、読むこと(R)、話すこと[やり取り](SI)、話すこと[発表](SP)、書くこと(W)の5領域別に設定されており、評価も5領域別に行います。L、Rについてはペーパーテストで評価することができますが、**SI、SP、Wの評価についてはパフォーマンステストの実施が不可欠**です。年間でバランスよく指導と評価ができるよう、年間を通じた計画作成を心掛けましょう。各単元では、単元目標とする領域を中心に、その他の領域もバランスよく扱いながら総合的に目標の達成を目指します。（右ページ参照）

外国語科教員は、**外国語の聞き方・読み方・話し方・書き方を、練習や言語活動を通してより良く・効果的に指導する技術**を持っていなければなりません。使命感を高く持ち、自己研鑽に励んでください。書籍や雑誌等を読み、第二言語習得理論（SLA）や指導法（TESOLなど）などについて学習し、言語指導に関する知識や技術の日常的なアップデートを心掛けましょう。

# 目標 (CAN-DO) から始まる授業づくり ～授業の Backward Design～



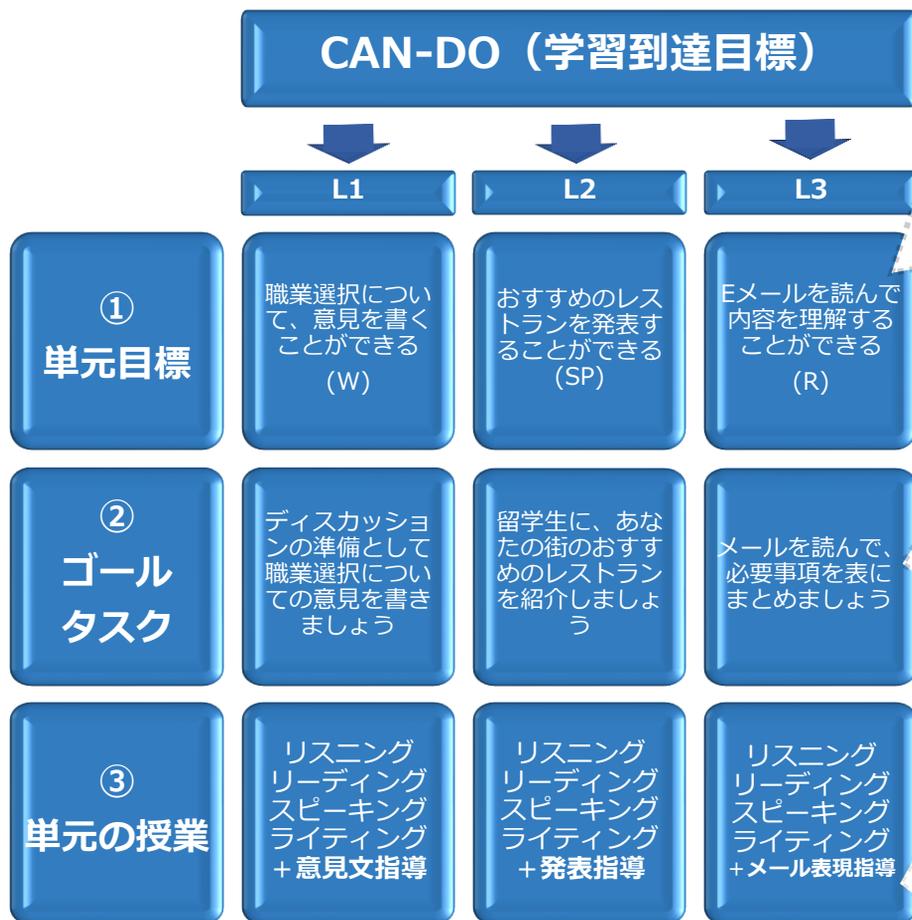
## CAN-DOリスト

学年	聞くこと	読むこと	話すこと (発表・やり取り)	書くこと
1年	はっきりと話されれば、まとまった説明を聞いて、その概要やキーワードを聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたまとまった英文を読んで、その概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表)前もって準備してあれば、身近なことについて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り)身近なことについて、簡単な英語でやり取りすることができる。	身近なことからについての説明や意見を、まとまった英文で書くことができる。
2年	はっきりと話されれば、まとまった説明やある程度継続する会話を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	学習を目的に書かれたやや長めの英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表)メモを見ながらであれば、読んだことについて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り)読んだり聞いたりしたことについて、感想・意見を簡単な英語でやり取りすることができる。	読んだり聞いたりしたことについて、その概要や要点を自分の意見をまとめた文章から書くことができる。
3年	さまざまな場面で話される英語を聞いて、その概要や要点を聞き取ることができる。	さまざまなジャンルのまとまった英文を読んで、概要や要点、話の展開を読み取ることができる。	(発表)メモを見ながらであれば、調べたことについて、まとまった英語で話すことができる。 (やり取り)あるテーマについて、簡単な英語で意見交換を続けることができる。	あるテーマについて、自分で書くことができる。

※各学校で設定します。必要に応じて見直しましょう。

- ・ CAN-DOが透けて見えるタスク、練習 (目的・ゴールの明確化)
- ・ それぞれの技能に寄与する語彙、文法の指導 (理解/表現のための言語知識)

## 「単元の指導と評価の計画」作成の考え方



単元目標は、「**年間のCAN-DOが具現化したもの**」になります。つまり、フォーカスしたスキル (一つか二つ) を意識して、5領域別に設定することが必要です。

単元のテキストタイプやジャンル・トピックに応じて、**その単元でフォーカスするスキル**を決めます。1単元の一つか二つのスキルでもOKですが、年間でバランスよく育成できるようにしましょう。

ゴールタスクとは、**単元の目標が達成できたかどうかを評価するためのツール**です。生徒の「思考・判断・表現」を評価するためのカギとなるのは、目的・場面・状況の設定です。実際のコミュニケーションを意識したタスクを実施しましょう。

単元の授業では、教科書本文を使用した4技能5領域の指導を、バランスよく行います。**教科書本文は4技能5領域の育成のために活用し、単元目標に基づくゴールタスクで確認する**、つまり教科書を練習して、ゴールタスクで応用力の腕試しをさせるという流れにしなければなりません。